

## 令和5年度鶴見区区政会議 第3回くらし安全部会 会議要旨

1 日時 令和6年2月13日(火) 午後7時00分から午後7時47分

2 場所 鶴見区役所 3階 302会議室

3 出席者

(委員)

小倉部会長、黒澤副部会長、坂本委員、佐々木委員、松本委員

(鶴見区役所)

中村市民協働課長、木村政策推進担当課長、秋本市民協働課長代理、

仲田総務課政策推進担当課長代理兼市民協働課長代理、保原総務課担当係長、芝谷総務課担当係長、

今井総務課担当係長、大川市民協働課担当係長、蓮元市民協働課担当係長、土井市民協働課担当係長

4 議題

(1) 令和6年度鶴見区運営方針(案)について

5 議事要旨

(1) 令和6年度鶴見区運営方針(案)について

事務局から、「令和6年度鶴見区運営方針(案)」(資料1)に関する説明を行い、委員からの意見等及び事務局からの回答の概要は次のとおり。

- ・ 交通安全対策に係る成果指標(単年度)では「交通事故死傷者数における自転車事故の割合」を設定されているが、分母である交通事故死傷者数の増減によって自転車事故の割合も変化することから、適切な効果測定を意図するならば、現行の指標とともに、実数として「自転車事故の件数」に関する指標も設定すべきではないか。
- ⇒ 自転車事故に関するデータは警察から提供されているため、自転車事故の件数が入手可能かどうかを確認したうえで、「自転車事故の件数」に関する指標の設定適否を検討していきます。
- ・ 成果指標について、概ねアンケート結果を設定されているが、そもそもアンケートに回答する方は意識が高かったり、好意的な回答をする傾向にあることから、結果である実績値は実態よりも高めに出てしまう。実態を適切に把握するためには、現行とは異なる指標も設定すべきではないか。
- ⇒ ご指摘のとおり、実績値が高めになる可能性は否定できませんが、アンケートについては、毎年同じ設問を設定したうえで、時系列にて比較し、割合等の変化をみることによって、取組みの成果を測定しています。また以前のご指摘を踏まえ、アンケートの設問を設定する際も工夫を加えたうえで、実態を適切に把握するよう努めているところです。
- ・ アンケートで否定的な回答する方に対する底上げが重要であり、当該層へのアプローチした結果を把握できるような指標の設定が望ましいと思われる。

- ⇒ アンケートの設問において、ある特定の調査対象のみに該当する質問を設定するなど、特定層に対する現状等の把握に引き続き努めてまいりたいと考えています。
- ・ 鶴見区将来ビジョンや運営方針に掲載されている成果指標は、達成目標又は努力目標のどちらか。
- ⇒ 達成目標です。

## 6 会議資料

- (1) 次第
- (2) 令和6年度鶴見区運営方針(案)(資料1)
- (3) 【補足資料】令和6年度鶴見区運営方針(案)＜素案からの主な変更点について＞(資料2)
- (4) 令和6年度鶴見区運営方針(案)(共通様式)(参考資料)